

## 第 2 回全国相撲指導者研修会

《国庫補助事業》



第 2 回全国相撲指導者研修会（主催＝日本武道館・日本相撲連盟、後援＝文部科学省）が、11月27日～29日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで、63名（地域指導者14名、教員21名、学生28名）が参加して実施された。

本研修会は国庫補助事業として、全国で相撲を指導する中学、高等学校の教員、及び社会体育指導者を対象に、中学校相撲授業における指導理論と方法に関する研修会を実施し、専門的な知識・技術・指導法を習得することを目的として開催された。

### ■第1日（11月27日）



安井 和男  
常務理事

開講式の主催者挨拶では、安井和男日本相撲連盟常務理事が「第2回全国相撲指導者研修会を開催するにあたり、昨年度の第1回研修会の反省を基に有意義な研修会になることを望んでおります。相撲は我が国の先人たちが、誰でも安心してできる競技として作ったものです。相撲の素晴らしさを学校現場で広めていく為、日本相撲連盟の授業研究会で指導案等の作成をしてみました。今回、そのノウハウについて皆様ができるかぎりお伝えし、学校現場において相撲の素晴らしさを伝えていただきたいと思います。短い期間ではありますがお互いに交流を深め、また、日頃の疑問点等ありましたら何なりとご質問していただきたいと思います。3日間よろしくお願いたします」と述べた。

また、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が「本研修会は国庫補助事業であり、日本相撲連盟と日本武道館による共催事業です。本研修会の目的は、中学校武道必修化による相撲の普及振興、また指導者の指導力向上にあります。中学校武道必修化は完全実施後3年が経ち、大きな事故もなく順調に推移しています。実施率は柔道が6割強、剣道が3割強、相撲その他武道が1割弱となっており、スタート時と大きな変化はありません。授業時間は全国平均で9.8時間、道場の整備率は60%弱となっております。また、保健体育科教員のみで実施している学校が増加しております。その理由はこの3年間で武道を専門としない教員が、研修会等で必要な知識を身に付けてきていることにあります。複数種目の実施校については減少傾向にあります。授業時間が10時間弱であることから複数種目実施することが難しいのが現状であります。



三藤 芳生  
理事 事務局長

さて、今の社会はスマホでゲームをして遊ぶ子供が多く、自分の身体を通して相手と喜んだり悲しんだりする経験がほとんどありません。相撲は伝統的な運動文化であり、面白く、楽しく、ハードルが低い競技であり、また、身体を押し合うなど相手と接触しながら考える力が身に付く武道で、まさに日本を代表する伝統文化であります。

受講生の皆様には相撲の素晴らしさをしっかり理解していただき、この3日間が有意義なものとなることを期待いたします」と挨拶を述べた。

開講式終了後、中学校体育相撲指導の『手引きと付属DVDの概要』についての講義が桑森講師により行われた。相撲の特性や指導する上での留意事項についての説明が「中学校体育 相撲指導の手引き」に沿ってなされた。質疑応答では具体的な技や受け身についての説明がされた。続いて大道場において蹲踞、塵浄水の礼、中腰の構え、腰割、四股等の基本動作についてDVDを観て確認し、それからグループ毎に実際に行った。その後、再び研修室に移動し、廣瀬講師と松浦講師がそれぞれの中学校での相撲授業の実践例を発表した。松浦講師からの「当初女子生徒は相撲への抵抗があったが、まわしの代わりにバスタオルを使うなど工夫を凝らしたことにより、段々抵抗感がなくなっていく」という報告が印象的であった。



グループ毎での四股

## ■第2日 (11月28日)

二日目は、午前中に『中学校体育相撲指導の実践法』として、まず安藤講師による『安全管理・指導』の講義が研修室で行われた。「学校は生徒が安心して学べる安全な場所でなければならず、適切かつ確実な危機管理体制を構築しておくことが大切である」「事故発生時の初動対応について明確にすること、校内組織、役割分担、連絡体制を整えておくことが重要である。また、5W1Hに基づきメモを取り、最新情報の集約及び把握に努めることが大切である」と説明した。そして、学校現場で実際に起こった心臓発作事故の症例を基にグループ討議を実施し、それぞれ発表を行った。

続いて満留講師による『指導計画について』の講義が行われた。「相撲は取らせるのは簡単だが、教えるのは難しいと言われている。簡易試合をなるべく多く実施し、生徒の気づきを大切にしてほしい」と説明した。その後、グループ毎に指導案の作成、発表を行い、午後からの中学生を対象とした指導に備えた。

午後からは勝浦中学校の協力を得て、『未経験中学生を対象とした指導』をグループ毎に行った。

「だるまさんがころんだ」を利用して基本動作である「すり足」や「押し」を行ったり、紐を使ってシッポ取りゲームをするなど、遊び的な要素を取り入れることによって相撲の基本を楽しく学ばせた。各グループとも重心を安定させ、下半身を使うことの大切さを熱心に説明していた。また、相撲の基本礼法である「蹲踞」、「塵浄水」につい

ては、一挙動ずつ、動作を確認しながら行った。生徒たちは皆神妙な面持ちで行っていた。

その後、各グループで授業内容についての反省をし、発表を行った。「時間が短かったため、一人一人の細部にまで目が届かなかった」「正しい姿勢を維持させるのが中々難しかった」「いい例と悪い例を見せながら指導できたのがよかった」「外部指導者(役)の活用がうまくできた」等様々であった。



シッポ取りゲームの様

また、夕食では相撲ならではの“ちゃんこ”がふるまわれ、活発な情報交換が行われた。



ちゃんこのふるまい

## ■第3日 (11月29日)

最終日、堀内講師による実践研究では、まず始めに試合をする際の注意事項や審判をする上での留意事項を説明し、その後遊びの要素を取り入れた手押し相撲やびよんびよん相撲等を行い、身体を温めた。続いて、相撲パンツを履き、グループ対抗の形で簡易試合を行った。手押し相撲やびよんびよん相撲の際には和やかな表情だったが、試合となると皆一様に真剣な表情で取り組んでいた。



簡易試合の様子

閉講式の講師代表挨拶では桑森講師より「勝負が終われば倒れている相手に対し、意識しなくとも自然と手を出し、相手を助け起こそうとする態度は、相撲の特質であり、武道の基本的な精神であると考えています。相撲の素晴らしさを更に広げていけるよう連盟としてもより一層努力していきたいと思っております」と総括が述べられ、3日間の研修会は無事終了した。